



問題と回答例

Q. あなたが今、「やってみたいこと」や「やっておくべきだと思うこと」について、自分の考えを書きなさい。

A1下位 回答例



I book read. Intresting.

A1下位の特徴

センテンスを使って**アイデアを表現**することがまだ**苦手**です。



A1上位 回答例



I want is read book. interesting.
And, writing book is future.

A1上位の特徴

簡単なアイデアであればシンプルな単文で表現できます。

※回答例には、意図的に誤りを含めていることがあります。

A1下位 → A1上位を目指すための指導案

目標

単語レベルから、簡単なセンテンス(S+V)でアイデアを表現できる



目安時間

20分

準備物 ピクチャーカード

性別や年齢の異なる2人がある動作をしているカードを複数個用意する。動作はどのカードも同じにし、動作の対象、方向が異なるものにする。センテンスを言わせることが目的のため、単語を言えばどのピクチャーカードかわかるようなものは使用しない。

ステップ

1

(全体)

- 3つのピクチャーカードを黒板に貼る。
- 生徒にピクチャーカードに描かれている情報を英語のセンテンスでノートに書かせる。
- ピクチャーカードを黒板から取り除く。
- 数名の生徒を選び、各自、ノートに書いたセンテンスの中から1つだけ選び、黒板に書かせる。
- 1つずつカードを見せ、黒板に書かなかった生徒に、カードと一致しているセンテンスがあるか聞く。

ステップ

2

(全体)

- 教師は新しい複数個のピクチャーカードを黒板に貼り、生徒に各自カードの内容を表すセンテンスを書いてもらう。

ステップ

3

(ペア)

- 生徒をペアに分け、1人ずつノートに書いたカードを表すセンテンスを口頭で、半数のみ共有させる。
- もう1人はセンテンスと一致するカードはどれかを黒板を見ながら答える。
- ペア内で役割を変えて同じことを行う。

ピクチャーカード例

下記の例と2人の表情が逆、同じ動作で対象が逆のイラストと一緒に使ってください。



POINT

教師の関わり方:英語での表現に慣れることが目標であるため、生徒の文法の誤りを都度訂正する必要はありません。他の生徒の文章を見ることで、自分の誤りに気がつき、修正するという、自発的な修正を促してください。もし誤りを修正する場合は、全ての誤りを修正するのではなく、主語と動詞の誤り修正のみ行ってください。細かい修正をすると、重要な誤りの習得を阻むことになります。